

|    |                          |  |
|----|--------------------------|--|
| 1  | 公開授業実施日時                 | 2017年12月8日（金）8:55～9:40   |
| 2  | 場所                       | 京都教育大学附属桃山学校 音楽室   |
| 3  | 対象                       | 5年2組（小学校5年生）35名  |
| 4  | 授業者                      | 高橋 詩穂  |
| 5  | 島名                       | グローバル・イシュー   |
| 6  | 単元名                      | 世界のいろいろな弦楽器の音色を味わって聴こう   |
| 7  | 関連する教科・領域                | 音楽科  |
| 8  | 単元の目標・ねらい                | 世界の多様な弦楽器の音色を味わい聴くことを通して、そのよさや面白さを感じ取る   |
| 9  | グローバル・スタディーズとしての目標・ねらい   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・世界の多様な弦楽器の音色を味わい聴くことを通して、多様な音色の良さやそれぞれの楽器のつながりに気付く</li> <li>・世界の人々とともに生きていくための課題の解決に自分がどのように関わるかを考えることができる。</li> </ul>                             |
| 11 | 単元の評価規準【教科・領域として】        | 多様な弦楽器の音色を聴き比べる活動を通して、それぞれのよさや面白さを感じ取っている  |
| 12 | 単元の評価規準【グローバル・スタディーズとして】 | 世界の多様な弦楽器の音色を味わい聴くことを通して、多様な音色の良さやそれぞれの楽器のつながりに気付いて発言したり記述したりしている  |
| 13 | 単元計画                     | <p>全1時</p> <p>世界の多様な弦楽器の音色を味わい聴き、それぞれの音色の良さや楽器による世界とのつながりについて考える。</p>  |
| 14 | 本時の目標                    | 世界の多様な弦楽器の音色を味わい聴くことを通して、そのよさや面白さを感じ取る   |
| 15 | 本時の展開                    | <p>「アラブ諸国」や「イスラム圏」という言葉から思いうかぶことをあげ、出てきたキーワードに偏りがあることに気付かせる。また音楽に関することがないことを確認し、ウードという楽器を提示し、その音色を聴く。その後、ウードと同じ仕組みである様々な弦楽器の音色を聴き比べる。そして、三味線と同じ仲間である世界の多様な弦楽器の音色を聴いて、気づいたこと感じたことを交流する。</p> |

|    |                    |  |
|----|--------------------|--|
| 16 | グローバル・スタディーズとしての特徴 | <p>楽器は、私たちの生活の中から生み出された音であり、人々の暮らしや文化と密接に関わっている。また楽器は、文化交流の中で互いに影響しあってきた。例えば、アラブ音楽の中心的な弦楽器であるウードは、イスラム文化の広がりと共に西アジアから北アフリカまで広く演奏されているのみならず、ヨーロッパのリュートやウクレレ、日本や中国の琵琶など同じ仲間の楽器である。また子どもたちが、日本の伝統楽器として学習し、その音色を味わいながら演奏した三味線も、このウードと同じ仲間の楽器である。子ども達にとって身近な楽器は、実は広く世界にルーツを持つものであることに本授業を通して気づかせたい。</p> |
| 17 | 授業者から一言            | <p>学習をとおして多様な楽器の音色の面白さに気付くだけではなく、「イスラムといったら、戦争とはこわいといったそんなイメージだったけれど、自分達の身近な楽器とつながりがあることを知れてよかった」「アラブの音楽をもっと聴きたくなった」と子どもが振り返ったように、「知る」ことをの大切さに気がつくことができた。</p>  |

# グローバル人材育成カリキュラム開発授業指導案

指導者 高橋詩穂

## 研究主題

言葉や文化の違いを認め合い、さまざまな人たちとすすんで関わり合える子の育成

## 高学年におけるめざす子ども像

自他国の文化の違いを理解し、その多様性を認め合いながら、さまざまな人とすすんで関わりあう

### 1. 教科名 音楽

### 2. 単元名 世界のいろいろな弦楽器の音色を味わって聴こう

### 3. 教材とグローバル人材育成の接点

楽器は、私たちの生活の中から生み出された音であり、人々の暮らしや文化と密接に関わっている。また楽器は、文化交流の中で互いに影響しあって来た。例えば、アラブ音楽の中心的な弦楽器であるウードは、イスラム文化の広がりと共に西アジアから北アフリカまで広く演奏されているのみならず、ヨーロッパのリュートやウクレレ、日本や中国の琵琶などの原型とも言われる楽器である。また子どもたちが、日本の伝統楽器として学習し、その音色を味わいながら演奏した三味線も、このウードと同じ仲間の楽器である。子ども達にとって身近な楽器は、実は広く世界にルーツを持つものであることに本授業を通して気づかせたい。

### 5. 本時について

・ 日時 平成29年12月8日（金） 第1校時（8：55～9：40）

・ 学年・組 5年2組 35名

・ 場所 音楽室

#### ・ 本時の目標

世界の多様な弦楽器の音色を味わい聴くことを通して、そのよさや面白さを感じ取る

#### ・ 本時の展開

| 学習の内容及活動  | 指導上の留意点   |
|---|---|
| ○「アラブ諸国」や「イスラム圏」という言葉から思いうかぶことをあげ、音楽について知られていないことを知る。 | ●京都で伝承されている柳川三味線であること伝え、自分にとってより身近な楽器であることに気づかせる。                         |
| ○ウードについて知り、その音色を聴く。                                   | ●今なお演奏される楽器であることを知らせながら、音色を味あわせたい。  |
| ○ウードと同じ仕組みである様々な弦楽器の音色を聴き比べる。                         | ●リュート、シタール、ウクレレ等の特徴に注目しながら、それぞれの類似点や違いを整理させることによって、それぞれの音色の面白さや良さに気づかせたい。 |
| ○三味線と同じ仲間である世界の多様な弦楽器の音色を聴いて、気づいたこと感じたことを交流する。        | ●日本の伝統楽器である三味線も、世界の他の国や地域の楽器とつながりがあることに気づかせたい。                            |

#### ・ 評価

多様な弦楽器の音色を聴き比べる活動を通して、それぞれのよさや面白さを感じ取ることができたか